吉田苞竹創刊

昭和四年三月十五日（第三種郵便物認可）
令和七年八月一日印刷納本
令和七年八月五日発行

（毎月一回五日発行）　第九十八巻　第八号　第一一五九号

令和七年（2025年）八月号

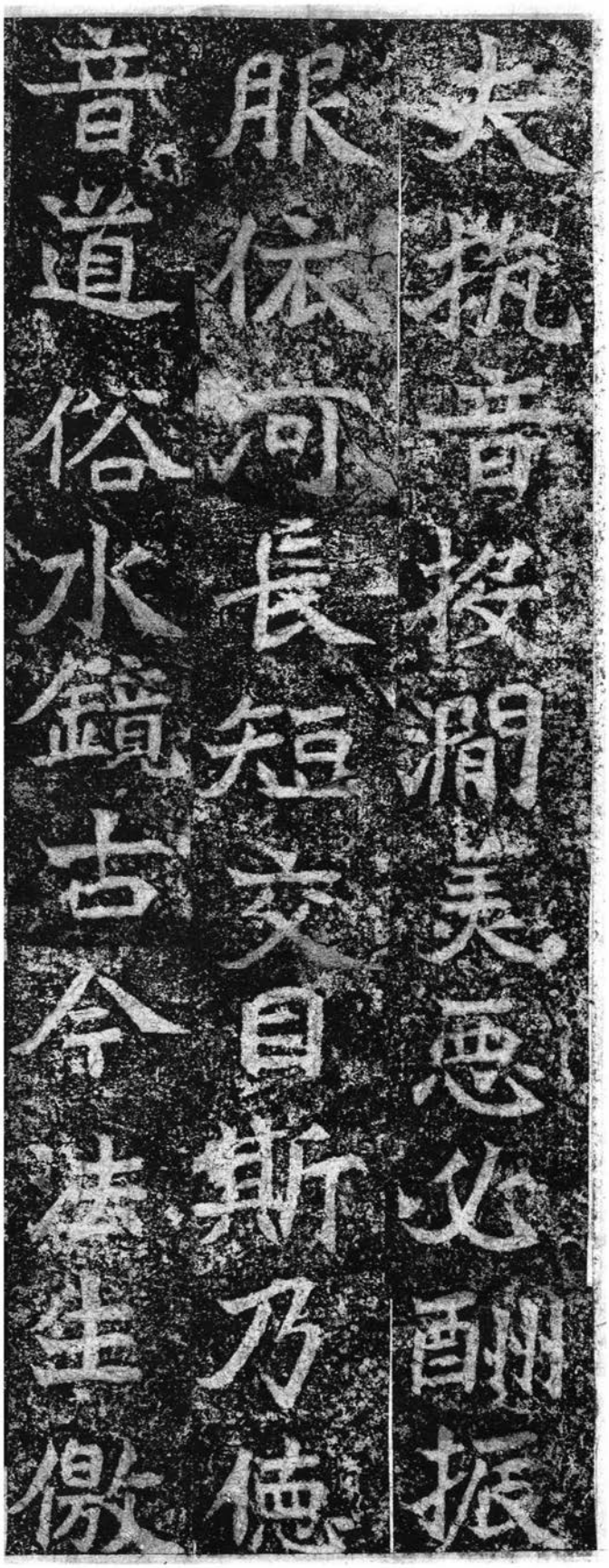
公益財団法人
書壇院

公益財団法人書壇院は、書道の研究、教育及び普及に関する事業を行い、書道芸術の高揚と精神の修養、人格の陶冶を図ることを目的としています。

古典研究

比丘法生造像記―龍門―

（中国法書選㉑ P.46）



夫抗音投澗。美惡必酬。振
服依河。長短交目。斯乃德
音道俗。水鏡古今。法生傲

（**漢字臨書規定**＝８頁）

課題
半切＝夫抗より古今まで（二十七字）
半紙＝斯乃德音道俗（六字）

「書は芸術」

宮下翠逕（みやしたすいけい）

高等学校では書道は芸術科の科目です。しかし小学二年生からお習字を始めた私には、書道は字を上手に書くための手習いの延長でしかありませんでした。芸術というのはどうもピンときませんでした。

展覧会に出品するようになっても、上手く書けたかそうでないか、という判断でしか作品を見ていませんでした。字を上手に書くことばかりに囚われていて作品を創作している意識は薄かったような気がします。

しかし、考えてみれば書と絵画とは共通する点が多々あります。まず、絵の勉強はデッサンから始まります。デッサン力が身についていなければ、いい絵は描けません。デッサンに当たるものが書では臨書でしょう。字を上手に書けるということは結局臨書によって基礎が身についているということに他ならないとやっとこの頃実感しました。

そのうえでの作品制作です。大事なのは構成です。配字や字形、墨色や、余白の取り方など細かい気遣いが必要です。そして人の心を引き付ける何かが表現できれば、それが上手く書けたということになるのでしょう。

これを書いている今日、毎日書道展の鑑別審査が行われました。わずか数秒で入落が判断されます。ただ丁寧な字を並べただけでは心をつかむことはできません。皆さん書道は芸術です。芸術作品を創作する意気込みで作品に取り組んでいきましょう。

令和七年　書壇　八月号　目次

表紙＝書壇院蔵　鄭道昭書　東堪石室銘　題字　集鄭道昭書　表2
古典研究……宮下翠逕…1
巻頭言……藤原豊道・林和子…2
同人参考手本　秋竹・爽穂・充・敬子　桑山戯魚・菊田竹子

競書課題

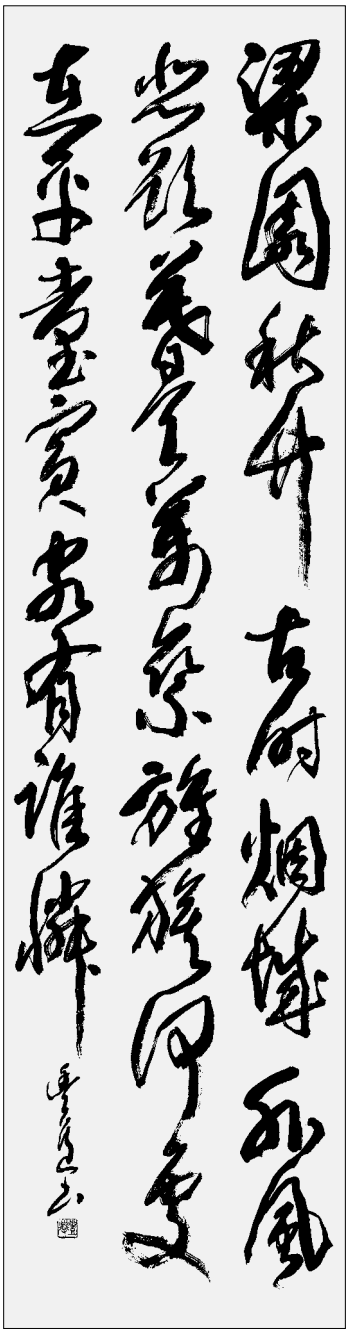
漢字規定……横山菁絢…5
かな規定……福谷玲子…6
南画規定……大久保楓紅…7
漢字臨書規定　中山孤舟・山村爽翠…8
かな臨書規定　星野静代・佐藤節子…9
日本文……桑山戯魚・鈴木啓佳…10
篆刻入門……益満丁盦…11
玄位・妙位・雪位試験規定…12
書道・南画教授認定と試験…14
日本文部真位試験…16
第九十二回書壇院展半切部公募要項…17
愛知・静岡地区交流会…18
岩手地区書道交流会…19
第一五四回審査会員遊苑…19
毎日書道展…20

第一一五九回選書

写真・批評…21
成績発表…33
九月五日締切課題予告…48
書壇院日記…49
バーコード券申込書…50
応募規定・競書出品方法…51
古典逍遥……髙橋彩綏…表4

同人参考手本　半切（135 × 35）　―競書の参考としてご活用ください―

藤原豊道書



―王昌齢詩―

梁園ノ秋竹古時ノ烟。城外風悲ム欲スルレ暮レント天。萬乗ノ旌旗何レノ處ニカ在ル。平臺ノ賓客有ツテカレ誰憐マン。（唐詩選通解）

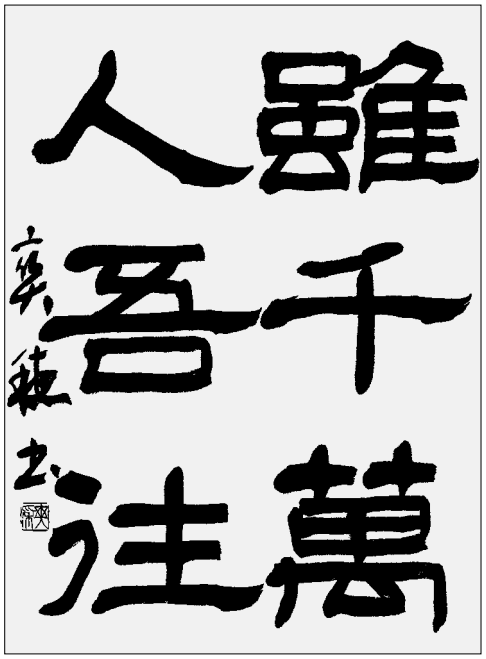
林和子書

―伊藤左千夫の歌―

庭のべの能　水みづく徒木立に爾　枝たかく多可久　青蛙鳴奈く　あけがたの希可多乃月

（かな墨場辞典）

同人参考手本　半紙　—競書の参考としてご活用ください—



雖モ二千萬人ト一吾往カン。　孟子句

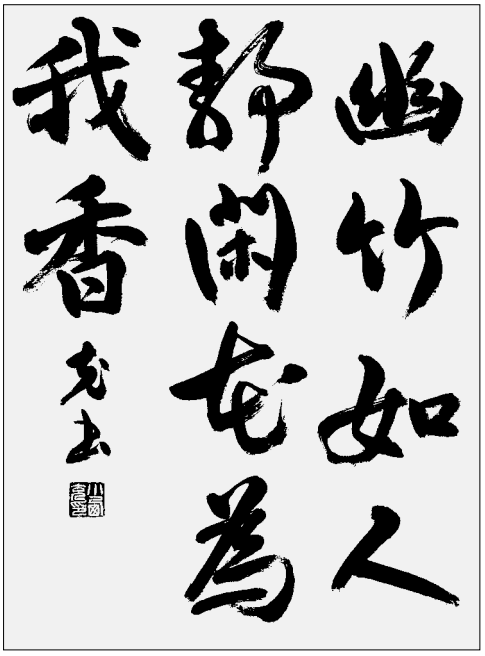
根本爽穂書

雨新ニ魚吸ヒレ浪ヲ。風過ギ鳥銜ムレ香ヲ。　田有年句

有賀秋竹書

石山の能石より白し　秋の風　松尾芭蕉の句

阿藤敬子書



幽竹如クレ人ノ靜カニ。閑花爲ニレ我ガ香シ。　黎簡句

小西　充書

書壇院展・毎日展公募と同サイズです　—ご活用ください—

同人参考手本

2尺×6尺額用

桑山戯魚書

倚レ杖ニ望メバ晴雪ヲ一溪雲幾萬重。樵人歸リ白屋ニ一寒日下リ危峯ヲ一野火燒キ二岡草ヲ一斷煙生ジ二石松ニ一却タ迴リ二山寺ノ路ヲ一聞ク打ツヲ二暮天ノ鐘ヲ一。（五言律詩）

—賈島詩—

用紙　朝陽箋

筆　和筆・長鋒

菊田竹子書

揮レ毫對スレバ客ニ風生ジ座ニ一。載セ酒ヲ論ズレバ詩ヲ月滿ツ一レ篷ニ。（墨場必携）

—鄧文原句—

用紙　紅星牌

筆　和筆・中鋒一号

八月五日締切（行書）

漢字規定

半紙縦書

上位・準上位課題

宸章類河漢

奉和聖製暮春送朝集使歸郡應制　王維

萬國仰宗周
衣冠拜冕旒
玉乘迎大客
金節送諸侯
祖席傾三省
褰帷向九州
楊花飛上路
槐色蔭通溝
來預鈞天樂
歸分漢主憂

宸章類河漢

垂象滿中州

聖製暮春に朝集使が郡に歸るを送るを奉和す應制　王維

萬國宗周を仰ぎ
衣冠冕旒を拜す
玉乘大客を迎へ
金節諸侯を送る
祖席三省を傾け
褰帷九州に向ふ
楊花上路に飛び
槐色通溝に蔭す
來つて鈞天の樂に預り
歸つて漢主の憂を分つ
宸章河漢に類し
垂象中州に滿つ

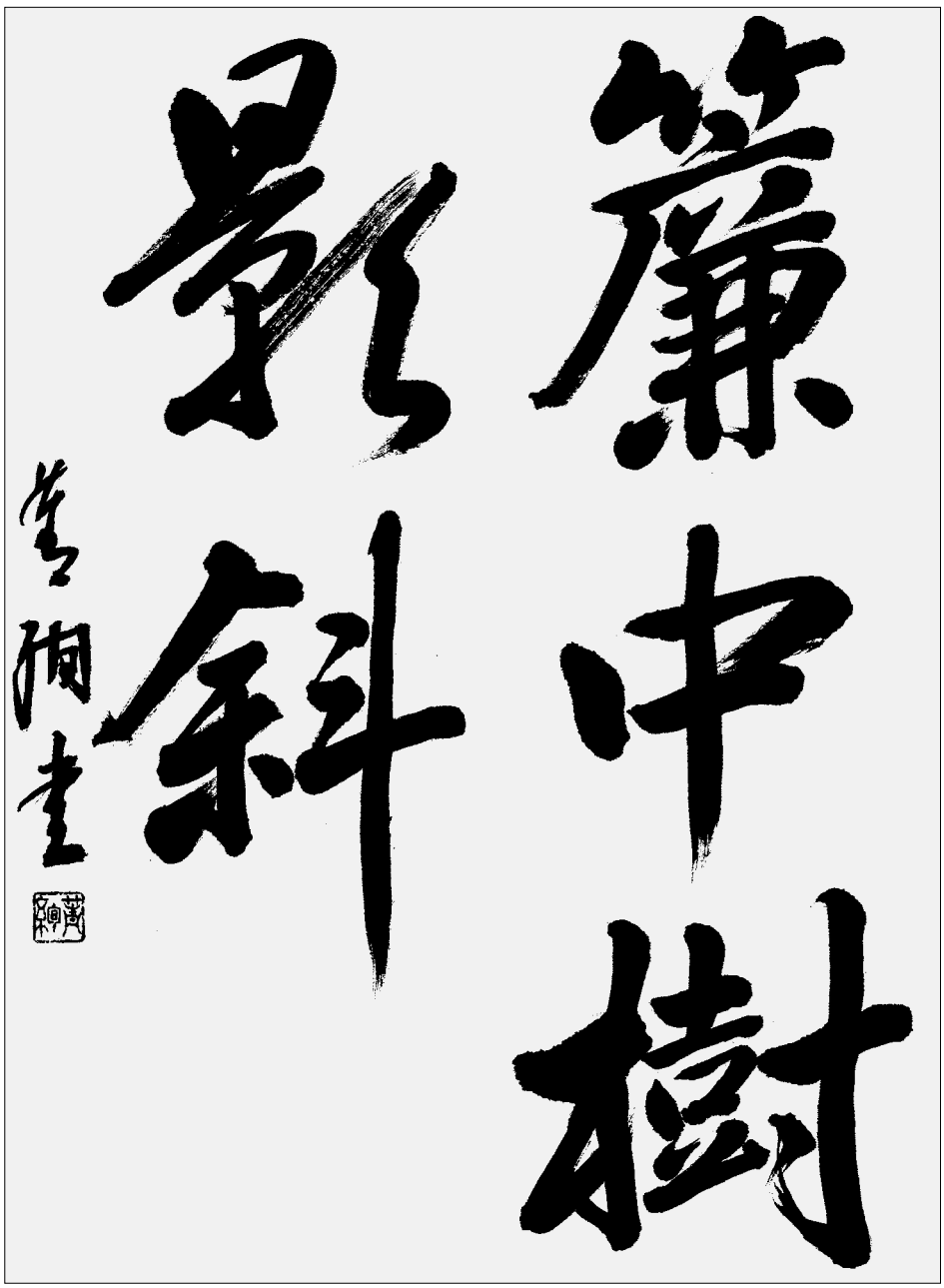
玄位～六位課題

簾中樹影斜　―李賀―

（簾中　樹影斜めなり。）

すだれの中には樹影が斜めに入る。

参考手本　玄位～六位　横山菁絢書



簾―画数の多い字なので横画は細くしましょう。**斜**―最終画を長くしましょう。
中―上下の字が大きいので小さめに。
樹―横に広げてください。
影―偏の上部をつめて下部をたっぷりと。

次号課題（予告）　48頁参照

八月五日締切

かな規定

半紙縦書

極位・準極位課題

かき分(わ)けて　折(を)れば露こそ
こぼれけれ　浅茅(あさぢ)にまじる
撫子(なでしこ)の花

（西行）

妙位～6位課題

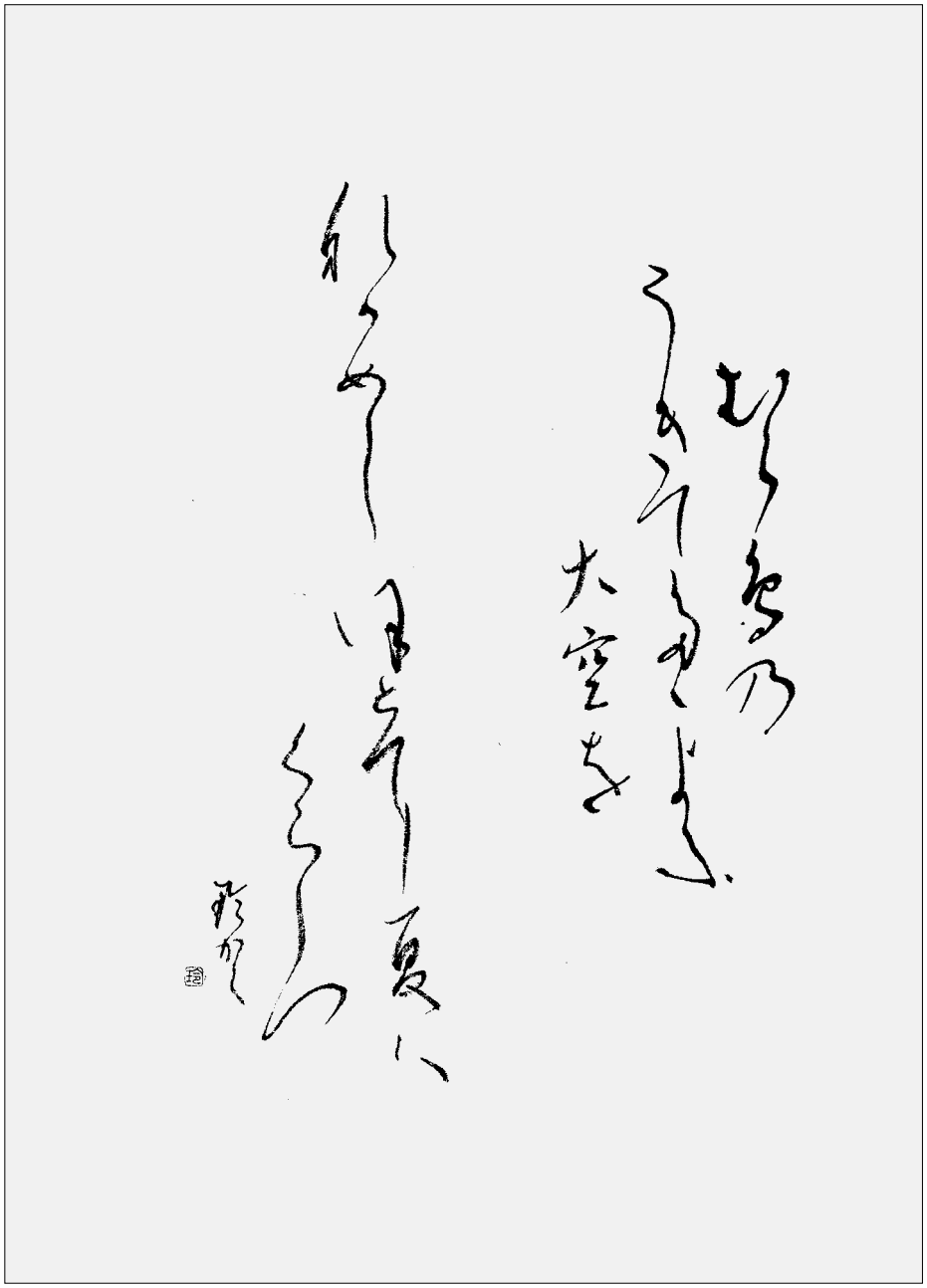
群鳥(むら)の　乃(の)　浮(う)きてただよふ　多(た)、
大空(おほぞら)を　那可(なか)めしほどに　保(ほ)耳(に)
夏は暮(く)らしつ　八(は)

（曽禰好忠）

次号課題（予告）
48頁参照

※かな漢字相互の変換、ちらし自由。落款は○○かく＋印。

参考手本　妙位～6位　福谷玲子(ふくたにれいこ)書



伸びやかな線を心がけました。

参考手本　大久保 楓紅 画

―野あざみ―

八月五日締切

南画規定

南画初学講座（一四九）

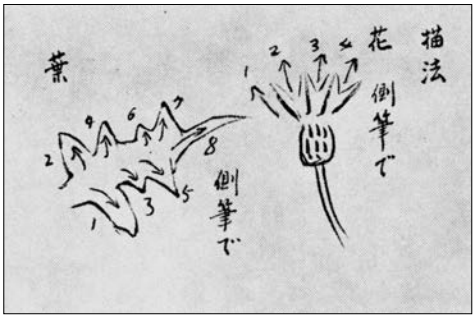
※横三十五センチ、縦二十七センチ（小画仙紙半切五分の一）の用紙を横に揮毫のこと。

大久保（おおくぼ） 楓紅（ふうこう）

本講座は、これまで書壇誌に掲載された大久保楓紅先生（一九一九～二〇〇二）の作品を参考手本として転載しています。

山野の草原に咲く野あざみを描きます。化粧用の眉刷毛に似た紅紫色の花です。

先ず花、蕚、葉、の順で描きます。



花は筆に洋紅をつけ先に群青を一寸つけて側筆でかきます。葉脈を墨で入れ最後に草を適当に描きます。

上の描法を参照してください。

讃は、「野花人を留む」です。

次号課題（予告）　48頁参照

八月五日締切

漢字臨書規定

小画仙紙半切・半紙縦書　参考資料 表紙内側

比丘法生造像記―龍門―

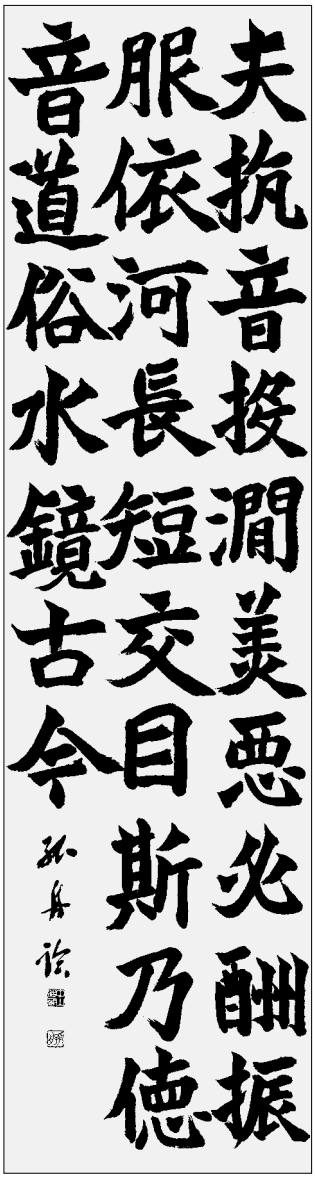
中山孤舟

比丘法生造像記「景明四年（五〇三）」は龍門造像記を代表する二十品に属し河南省の古都洛陽の南郊十四km程の処にある龍門石窟のうち古陽洞南壁上段に掘り抜かれている。洞内の釈迦像の台座中央に刻された銘は、龍門造営に参画した僧侶の一人と言われる比丘法生が孝文帝、北海王母子を供養したものである。

造像記の書は古くはあまり評価されなかったが、時代が下り清朝にいたり書法や意外性のある造形美が注目され推奨されることとなった。造像記の一般的な特色としては、何と言っても方筆による起筆と収筆、骨格の確かさと、力強い筆力。激しいまでの点に於ける感覚的な鋭角性。また転折に於ける独特な書き方等、新鮮な驚きと創造力を刺激してくれる。

課題の比丘法生造像記の特色に目を転じた時、全体的には方筆による入筆の力強さを感じるものの、円筆による転折に円みをもたせ、その書風は何処か平穏な感を抱かせ温厚に引き締まって見える。

臨書に当たっては、方筆の鋭さに一部隷風を加味した書風をイメージして、一人ひとり個性的な作品を期待しております。



中山孤舟臨　半切参考手本（上位～六位）

山村爽翠臨　半紙参考手本（上位～六位）

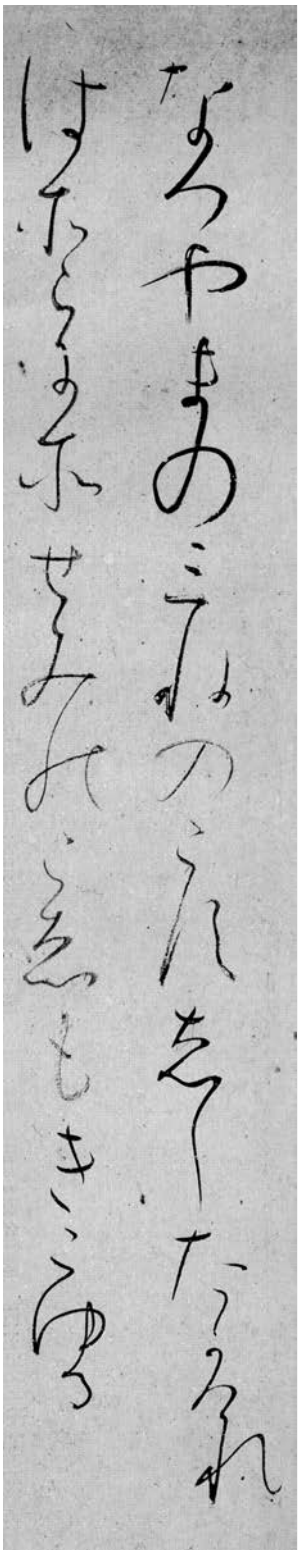
次号課題（予告）
49頁参照

八月五日締切　かな臨書規定　伊予切　―八―　半紙縦半切

（二玄社　日本名筆選㉖）

極位〜2位

左を半紙縦半切に臨書すること



なつやまの　みねのこずゑし　たかければ　そらにぞせみの　こゑもきこゆる

課題の歌は、夏山の峰にある木々の梢は高い所にあるので、鳴く蝉の声も空中で鳴いているかのように聞こえる、と詠んだ作者未詳歌。筆線の太さの変化が際立つ巧妙な書き振りの一首です。一行目「な」の書き出しは、筆圧をかけ太く短く、二筆目は細く鋭く。初句は側筆を交えてゆったりと書きます。二、三句目は文字の傾きを微妙に変えて趣を表出。二行目は墨を保ちながら整然と書き、終句半ばで墨継ぎをして安定感を生じています。明るく格調高い古筆の美しさを感じながら心穏やかに筆を運びましょう。

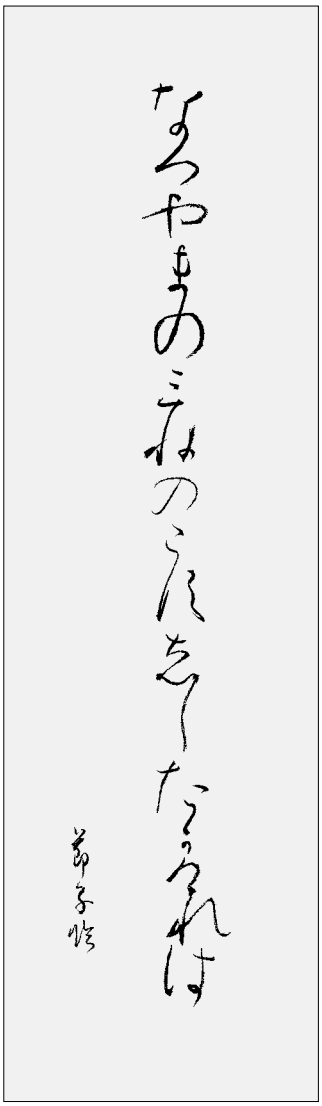
（星野静代）

3位〜6位

半紙縦半切に臨書すること

なつやまの　みねのこずゑし
たかければ

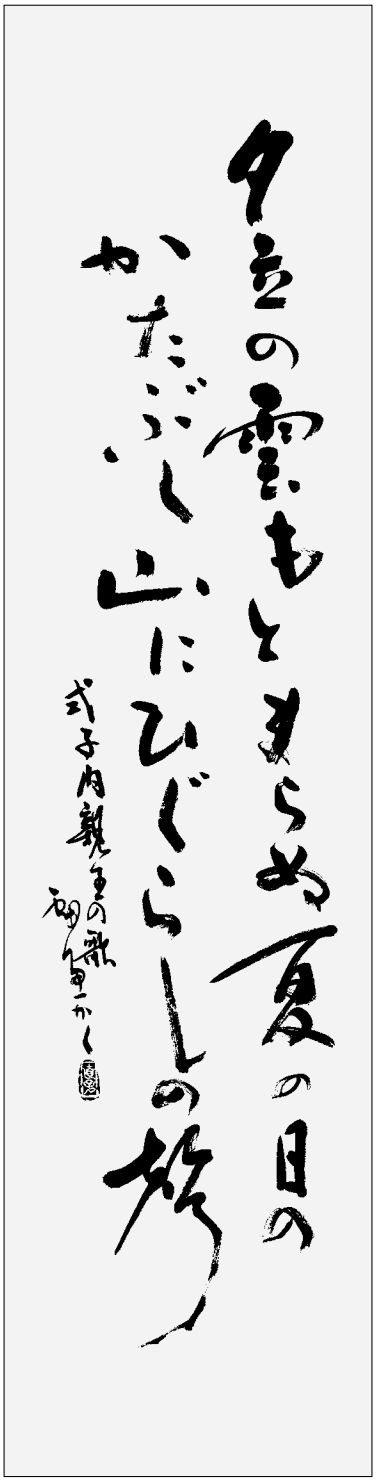
3位〜6位参考手本　佐藤節子臨



次号課題（予告）
49頁参照

8月5日締切　日　本　文

①条幅規定　半切タテ　参考手本　桑山戯魚（くわやまぎぎょ）書



夕立の　雲もとまらぬ　夏の日の　かたぶく山に　ひぐらしの声（聲）　（式子内親王）

次の字へ次の字へとリレーをするようにきました。

②半紙規定　タテ

参考手本
鈴木啓佳（すずきけいか）書

あさがほの　裏を見せけり
風の秋　（森川許六）

③半紙随意　書体・文言自由。半紙ヨコ

次号課題（予告）
48頁参照

篆刻入門

（二六九）

益満丁盦

八月五日締切課題

○規定「清風一榻」

○随意（または摹刻を含む）

○印は3㎝以内、摹刻は原印大とします。

○51・52頁応募規定をご覧ください。

※出品票を貼ったバーコード券を必ず貼付してください。

規定参考　益満丁盦作

清風一榻（せいふういっとう）爽やかな一陣の風の訪れ。榻は腰掛。李日華『竹』より

お詫び　『書壇』七月号　規定参考印影が裏返しで印刷されておりました。深くお詫び申し上げます。

摹刻参考

紹弓氏（丁敬）

鈴木　水心

九月五日締切規定予告

「護封」

《応募作品アドバイス》

今月の課題は「無恙」でした。配置し易い二字句です。心の形に各々の工夫を見ました。

規定

○蘭陽さん、切れのある爽やかな刻風です。無の中央部の壊れ方も奥行きを演出し、功を奏しました。

○流芳さん、二字を離す章法が効果的です。鈐印も申し分ありません。

柴　蘭陽

堀　流芳

○水心さん、元朱文印の風味のある精緻な作品です。無の上部密画に比して、恙の疎画感がやや気になるところです。恙は筆画を上側に寄せて密感を見せ、心部の下垂左右に空間を取る方法もあるかと思います。

鈴木　水心

○賢さん、サクサクとした小気味良い刀法と、心の字法が活きています。上側左右角をやや落とすべきか否か、一考の余地ありです。

小林　賢

随意

摹刻課題は「軍假候印」でした。

柴　蘭陽

○蘭陽さん、満白の風合いが見事に表現されています。

○水心さん、呉譲之「學然後知不足」の摹刻作品です。原印をよく捉えています。

次回より摹刻の出典（刻者名）を必ず明記してください。